

個別の指導計画作成について

「個別の教育支援計画」とは、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、乳幼児期から学校卒業までの長期的な視点に立って、医療、保健、福祉、労働等の関係機関と連携し、適切な指導及び必要な支援を行うための計画です。

～個別の教育支援計画の作成とマニュアルより（那須塩原市教育委員会）～

過日、御回答いただいた「支援要望事項」の保護者と児童からの情報と、児童の在籍学級での様子を知る各担任の情報から、一人一人に対しての指導目標を設定した「個別の教育支援計画」を作成していきます。作成しましたら、保護者の皆様と一緒に検討する機会を設定しますので、御協力をお願いします。

基本は「見る」「聞く」



「見る」「聞く」は、現代教育の歴史がはじまるずっと前から使われている学習の基本です。「見る力」「聞く力」を高めると子供たちの本来の観察力が高まり、衝動性もコントロールされ、問題行動も改善されていきます。その結果、子供たちは安定し、成績も少しずつ上がってきます。学習を受け入れるための「見る力」「聞く力」、学習を積み上げるための「見る力」「聞く力」が必要となります。

そこで、ことばの教室では、必要に応じて、授業の始めに集中トレーニングを取り入れています。集中トレーニングの一部を紹介します。

☆姿勢のためのトレーニング

①リラックス寝型姿勢 → 体がじっと止まっている

- ・子供を床に寝かせる。（ことばの教室では、ヨガマットに寝かせています。）
- ・背中を下にして、おへそを天井に向けて、寝る。
- ・20数える間、静かに寝る。20秒間体が動かなかったら、10秒ずつ時間を延長して、1分間リラックスして寝ることを目標にする。

②着席姿勢 → 学習可能な着席姿勢をとる

- ・1分間、体を動かさないで寝ることができたら、あぐらをかいて座らせる。
- ・目を閉じて、手はラクにして両膝の上に置く。
- ・その姿勢で20秒間静止させる。上手になったら、10秒ずつ時間を延長して、1分間を目標にする。

*頭と首と背骨がまっすぐになるように支援する。

- ・次に、あぐらを正座に変える。あぐらと同様に1分間を目標にする。
- ・正座も上手になったら、椅子に座る。
- ・子供が自分でまっすぐに伸ばした背骨の上に頭を乗せるように声を掛ける。



「人と関わる力」を育てています

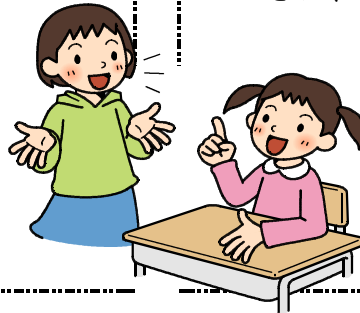
子供たちは、普段の生活の中で、家族や学校の先生、同級生、上級生、下級生、地域の人々など、いろいろな人と関わりながら生活しています。多様な人間関係の中では、様々な異なる考え方を受け止めながら、自分の意見や気持ちを相手に伝えて、スムーズなコミュニケーションを取ることが大切です。

ことばの教室では、子供たちの「人と関わる力」を伸ばすために、ソーシャルスキルトレーニングや遊びなどを通して対人関係のスキルを学ぶとともに、「聞く力」や「話す力」、「ルールを守る力」、「行動する力」などを育てています。



聞く力

相手の話を最後までよく聞き、異なる考え方も受け止めることのできる力です。相づちを打ったり、分からなければ首を傾げたりするなど、反応を示しながら聞くといいですね。聞く力は、先生の話や授業内容を正しく理解することにつながることで、人間関係だけでなく学習にも結びつきます。



話す力

自分の気持ちや考えを言葉で相手に伝える力です。楽しくおしゃべりするだけでなく、何か困ったことや問題が起きたときに、状況や自分の気持ちなどを説明して伝えることも話す力です。なぜ困っているのか、自分はどうしたいのかを伝えることができると、まわりとの関わりがスムーズになります。

ルールを守る力

礼儀やマナー以外にも、守らなければならないルールはたくさんあります。なぜそのルールがあるのか意味を理解し、納得して守ることが大切です。遊びの中にもルールがあり、ルールを守らないと遊びが成り立たなかったり、トラブルになったりします。スムーズな人間関係を築いていくためには、ルールを守る力を身に付けることが必要です。



行動する力

「うまくいかなかったら…」「できなかつたら…」と失敗を恐れずに、やってみたいことや興味をもったことを行動に移すことは大切です。友達に自分から声をかけたり、遊びに誘ったりするのも行動する力の1つです。行動する力を育てるとともに、相手の気持ちや場の状況を考えながら行動できるよう、状況に応じたコミュニケーション力も育てています。

